

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Wing-Gardenときわ台・西台			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 22日		～	2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	ときわ台 49人 西台36人	(回答者数)	ときわ台 32人 西台 16人
○従業者評価実施期間	2026年 1月 14日		～	2026年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	ときわ台 6名 西台 6名	(回答者数)	ときわ台 6名 西台 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 24日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の特性は個々ある中で柔軟に個別と小集団での活動が出来ている事	子ども一人ひとり、障がいの種類や程度、性格、得意、苦手、家庭環境、感心事など大きく異なっている。 子どもの発達段階、障がいや特性からくる行動の特徴、本人が抱えている困りごと、 将来の自立に必要な力、これらに合わせて最も適した方法で支援し成長を支える事に心掛けている。	職員間、保護者、関係者と常に情報交換を図りながら、 特性を理解して強みを伸ばしていくことを狙いとしている。
2	日々の5領域に基づいたプログラムの実施、 年間の行事や四季の行事の実施（お花見、夏の水遊び、紅葉観賞、いちご狩やお芋堀りの収穫体験、ハロウィン（商店街の方々にご協力頂き実施）、クリスマス会、書初め等） 人気のクッキングは週に1回は実施、買い物体験、他課外活動を豊富に取り入れている	子どもの成長個々の特性において 参加するしないは当然あるが、 こちらからまずは声掛けは行う様にしており参加を促す事には努めている。 課外活動の実施に際しては、障がいの特性に応じた合理的配慮として、移動手段の選択、グループ編成、など安全の確保と権利保障の両立を図っていき、これらの工夫により利用者の興味関心を尊重した主体的な参加を促し自己決定を基盤とした発達支援の充実に努めている。	これまで様々な活動を実施してきたが、その子の特性、 発達段階、困りごと、 将来の自立に必要な力に合わせて最も適したプログラムを 利用者とともに考えて実現していきたいと考えている。
3	保護者への支援	利用者の当日の様子を保護者様に送迎時対面での申し送り、連絡帳アプリを用いた活動報告、 体調、情緒、学校での様子をお伝えして生活全体を見通したアセスメントの更新に繋げる。また都度養育上での悩み事への助言。兄弟支援や家庭負担での配慮は必要に応じて行う様にしている。	放課後等デイサービスは学校、家庭、地域を繋ぐハブ機能を有しており、関係機関との連携を通じた包括的養育支援が求められる。 保護者支援、移行支援、地域交流の促進は子供の最善の利益を実現するそのうえで 保護者様との関わりは非常に大きな役割と位置づけられる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の拡充	これまででも様々な活動を各方面の方々の支援を頂いて行ってきた。 消防署見学、児童館での児童同士の交流、芋ほり、スーパーでの店員さん学習（裏方さんの魚の捌き方、総菜の加工の様子等）、地域ボランティアさんとの夏祭りのお手伝い等多くの地域行事、地域資源の活用、人的交流を図ってきた。	今後の企画になるが、社会貢献型も考えている。ペットボトル回収、ゴミ拾いなどがあげられる。 職員からの提案でハーフマラソン大会の水分補給のボランティアも考えている。 利用者の活動、参加の権利を保障する発達支援として重要である。 地域行事や公共施設の利用ボラとの合同活動を通じて実生活に即した社会経験を提供し、 インクルーシブな関係づくりを促進している。

2			
3			